

## 2006年度 第8回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

開催日時：2006年12月12日(火) 午後7時15分～9時  
開催場所：西東京ボランティア・市民活動センター活動室  
出席委員：阿部靖子、熊田博喜、坂口和隆、瀧島喜重、柳澤正樹  
          山下恭子、渡辺美恵<以上7名、敬称略、あいうえお順>  
欠席委員：飯塚 睦、安岡厚子<以上2名、敬称略、あいうえお順>  
事務局：齊藤 睦(地域福祉課長)、中澤一郎(主事)、今林朝香(コーディネーター)  
          平田典子(コーディネーター)、丸木 敦(係長)

### 配布資料

資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(11月)  
資料 2：コーディネート状況等月次報告  
資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター予定表(12月)  
資料 4：2006年度第6回災害時のシステムづくり専門委員会会議録<確定稿>  
資料 5：2006年度第7回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>  
資料 6：歳末たすけあい運動募金配分金使途計画について  
資料 7：西東京ボランティア・市民活動センター強化プラン進捗状況

### 委員委嘱

ほとんどの委員が新たな任期となった最初の会議となることから、委嘱状が手渡される。

### 自己紹介

名簿にしたがって、自己紹介が行われる。

(詳細記載省略)

### 正副運営委員長の選出

・運営委員長は西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会設置規則により、担当理事が務めることになっていることから、担当理事が就任した。

委員長：副運営委員長は、まず立候補があれば受けたい。

委員長：立候補がないようなので、推薦はあるか。

委員長：ご意見がないようなので、前任期でも副運営委員長を務めていただいた瀧島さんに、引き続きお願いしたいと思うがどうか。

異議なく全員一致で瀧島喜重氏を副運営委員長に選出した。

委員長：それでは、業務報告に移りたい。

## 1. 報 告 事 項

### (1).西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

事務局より、資料1、2、3に基づき11月期の業務、コーディネート状況の報告および12月期の業務予定の報告が行われた。

委員：軒下ふれあいバザーのチラシはどこに配っているのか。

事務局：公共施設にはすでに配布している。近日中に近隣の住宅にチラシを配布する予定になっている。

委員：お店のチラシに刷り込んである。約3万世帯に配布している。

委員長：ボランティア・市民活動センターの大きなPRになると思う。

他に質問、意見なく以上をもって11月期の業務報告および12月期の事業予定の報告を終了する。

## (2) .災害時のシステムづくり専門委員会活動報告

事務局より、資料4に基づき第6回災害時のシステムづくり専門委員会（以下、「災害専門委員会」と表記）の協議内容について報告がある。

委員長：講師をお願いしている方はひじょうに有名な方で、海外での災害情報を提供するウェブサイトをつくっている。

他に質問、意見なく、以上で災害専門委員会の活動報告を終了する。

## 2 . 審 議 事 項

### (1) . 2006年度第7回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録について

資料5により、第7回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録の確認を行う。

委員長：修正箇所等あるか。

修正、追加等の意見なく第7回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）を確定稿とすることを承認した。

### (2) . 歳末たすけあい運動募金配分金の使途計画について

事務局より資料6に基づき、2008年度において歳末たすけあい運動募金の配分金をどのように使うかの提案がある。

委員長：事務局からの説明があったが質問、意見はあるか。

委員長：資料中の募金額というのは、配分額なのか、集められた金額なのかどちらなのか。

事務局：集められた金額である。

委員長：運営委員会で配分額の使い方を決定することができるのか。

事務局：毎年1月に歳末たすけあい運動募金配分委員会が開催され、決定されることになっているので、運営委員会からは配分委員会に案を提出するという形になる。

委員長：中央共同募金会の検討会に加わっているが、歳末たすけあい運動は今の時代にそぐわなくなってきており、2年先にどのように使うかを定めることは難しいという議論をしている。近い将来、このやり方が変更されるのではないかと思う。

委員：事務局案にあるホームページの機能、デザインを変更することは必要なことだが、ホームページの閲覧状況はどうなっているか。

事務局：過去の運営委員会でも資料を提出しているが、ホームページ開設以来2年間で約28,000件のアクセスがある。

委員：事務局の説明の中に、歳末たすけあい運動募金の使途が不明という市民からの声があるとのことだったが、市民に対して集められた募金がどのように使われたのかを報告しているのか。

事務局：事業報告書、東京都共同募金会ホームページ、西東京市社協だよりでどのように使われるか

を報告するとともに、翌年に募金のお願いをする際に前年の募金状況の報告書を作成してその年の募金協力をお願いをしている。

委員：そうだとすると、募金の使途は明確になっていると思うのだが。

事務局：説明不足だったが、集められた募金の使途が不明ということではなく、歳末たすけあい運動という名称のイメージから、経済的理由などで困っている人が年を越すことができるように見舞金として使ってほしいという意識が募金協力者には強く、たとえば広報事業などになぜ歳末たすけあい運動募金を使わなければいけないのかということ言われている。

委員長：来年度の配分額の使い方としてボランティア・市民活動センターだよりを発行するという計画であったが、これを継続するつもりはないのか。

事務局：このような広報紙は、年に数回発行しなければ効果がないと思っている。また、ホームページを作成してから2008年度で丸4年が経過するので、ホームページに力を入れたいと思っている。

委員：毎年作成する事業計画と予算を検討する時に、この歳末たすけあい運動募金の配分金の額が他の財源の中に隠れてしまってどのように使われるかがわからなくなってしまうのではないかと。そうだとすると、今、歳末たすけあい運動募金の配分金の使い方として検討する意味はないのではないかと。

事務局：そのようなことはなく、明確にこの事業には歳末たすけあい運動募金の配分金を充てるという予算の立て方をしている。

委員：資料の中に通常予算として計上しにくいということがあるが、それはどのようなことか。

事務局：新たな事業のための予算は、既存の事業をやめなければなかなか計上しにくいのが現状だ。

委員：特別会計を組むということはできないのか。新規事業を行うために補助金を申請するということはできないか。

事務局：現状では補助金が前年実績に対して増額されるということは考えにくく難しいと思う。

委員長：事務局としての考えは第1案でまとまっているのか。

事務局：職員会議を開き全員一致で第1案とした。

委員長：歳末たすけあい運動募金配分委員会にこの案を提案した場合、承認されるかどうか問題だが事務局の感触としてはどうか。

事務局：配分委員会には募金に協力してもらっている自治会からも委員として加わっている。したがって、歳末たすけあい運動募金に対するイメージが先に説明したとおりなので、今回提案しようとしている事業の必要性を具体的に説明してもなかなか理解されないのではないかと考えている。

委員長：しかし、ボランティア・市民活動センターにとって必要な取り組みだということであれば事務局案で配分委員会に提案するしかないがそれでよいのか。

委員：事務局の考えを盛り込んで必要性を強調した資料を作成して配分委員会に提出したほうがよいのではないかと。

事務局：歳末たすけあい運動募金配分委員会に納得してもらおうための資料を用意したい。

他に意見、質問なく全員一致で事務局案を歳末たすけあい運動募金配分金の2008年度の用途計画として配分委員会に提案することを承認した。

### (3) 西東京ボランティア・市民活動センター運営上の課題および強化プランの見直しについて

資料7に基づき、事務局より西東京ボランティア・市民活動センター強化プランの進捗状況について報告を行い、運営上の課題について説明がある。

委員長：この強化プランに修正を加えずにこのままのプランで進めていくかどうかだが、意見はあるか。

委員：以前、自分がいる団体に所属していたが、その後他の団体で活動を始めた人がいる。その人がまた自分のいる団体に戻りたいということで今また一緒に活動をしているが、他団体での経験やいろいろな情報を得て戻ってきてくれた。そういったことが市民活動には必要なのではないかと思う。

- 委員：強化プランにはいくつかの柱があるが、この項目を作成した経緯はどのようなことだったのか。
- 事務局：強化プランを作成した当時はボランティア・市民活動センターのミッションも明確になっていなく、まずはミッションを明確にすることから始めた。そして、このミッションを実現するために、さらには中間支援機能を果たしていくためには何が必要なのかを考えた結果、このような柱立てとなった。
- 委員：この強化プランの中で実施できていないものが今も必要なのか、あるいはもう必要ではないのか。また、できていないのであればどうしてできていないのかを議論する必要があるのではないか。
- 委員長：取り組み事項は、必ずやらなければいけないというものではない。具体的な事業よりも文章の中にある考え方が大事だと思っている。
- 委員：アンケートなどを実施しているようだが、その人の訴えにきちんと応えていくことが必要だと思う。いろいろな取り組みに市民がどんどん参加してくるようになるとよい。職員がニーズをとらえる感性をもつことが大切だと思う。ミッションの文章を読むと、市民一人ひとりが幸せになることが必要だという視点が見えてこない。それを残念に思う。講座などを実施する時に「学ぼう」とか、「力を貸して」という呼びかけでは参加しようと思ってもらえないので、講座に参加することによって「自分自身が変われる」ということをアピールしていくことが必要だと思う。
- 委員長：ニーズを意図的に発掘して事業化していくことが必要だと思う。災害の取り組みなどはニーズに沿ったものだが、日々のコーディネートの中でニーズをしっかりと発掘することが求められている。
- 委員長：強化プランができてから何か変わったことはあるか。
- 事務局：職員の意識は変わったのではないかなと思うが、運営委員の思いを実現させるには、まだまだではないかなと思う。
- 委員長：強化プランを今後見直すかどうかが、見直しは必要だと思う。
- 委員：この強化プランの作成に携わった委員が何人かいるので、その委員にどのような思いでこの強化プランを作成したのかを聞いてみたい。
- 委員長：それでは次回は、事務局から強化プランのこの部分を議論してほしいという点を出してほしい。また、強化プランの作成に携わった委員から当時の思いを聞くことにする。

以上をもって、2006年度第8回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し、散会する。